



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：イランのミサイル発射実験に対するイスラエル、米国の反応
(7月10日付現地各紙他)

7月9日夕、イランのテレビがシハブ3を含む複数のミサイル発射実験の成功を伝えたことに対し、イスラエルは同ミサイル発射が新規に開発した技術の実験ではなく、通常演習の一環と受け止めていると報じている。また、同実験に関する米国ワシントンポストの報道概要は以下の通り。

1. イスラエルの反応 (7月10日付現地各紙)

- (1) 9日、イランのテレビは、ミサイルの発射事件に成功したと伝えた。発射されたミサイルは、イスラエルを射程範囲に含む長距離ミサイル「シハブ3」を3発含む合計9発で、その他「シハブ2」及び「シハブ1」、「ファテフ110」、またイランがシリアとヒズブッラーに渡した「ジルザル2」の短距離ミサイルも含まれていた。
- (2) イスラエル国防関係筋は、今般のミサイル発射はイランとイスラエル間の「言葉と威嚇の戦争」の一環との見方を示している。また、イスラエル政府は、6月に国際報道機関が報じた、イスラエル空軍によるイランの核施設空爆を想定した大規模演習に対するイラン政府の反応と受け止めている。イスラエルの軍事専門家は、イランが多様な複数ミサイルを同時に発射できることを示す通常演習の一環で、新たに開発した技術の実験ではないとの印象を得ている。

2. 米国の反応 (7月9-10日付、ワシントン・ポスト紙報道)

- (1) ホワイトハウスは、イランに対しこれ以上発射実験を行わないよう呼びかけた。ライス国務長官は9日、イランのミサイル発射実験は、世界が米国のミサイル防衛システムを必要している十分な証拠であると述べた。また報道官は、「世界に対するイランの義務と完全に矛盾している」と述べた。
- (2) 国防省関係者ら(匿名)によると、同発射実験がどれだけ深刻なものだったかは完全に分析が終わるまで明白にはならない見通しで、初期段階の調査では、米国の追跡システムは7つのミサイル発射を探知した。国防省のインテリジェンスは、これらのミサイル発射は「部隊トレーニング(troop training)」の一部であったと判断している。同関係者らは、今回のテストはイランの「ノーブル・プロフィット(Noble Prophet)」演習(2006にも2回実施され、それぞれ複数のミサイル発射を伴った)の期間中に行われたことを指摘した。この件に関して、国防省関係者の一人は、イランの核計画を巡り、イスラエル・イラン間で最近激しさを増している双方の脅迫行為における直近の展開に見えると述べた。
- (3) パーンズ国務次官は、イランは核計画が進展しているという認識を助長しようと試みていると発言した。しかし同次官は、下院の委員会のために準備した証言で、イランの「実

際の進展はよりささやかなものである」とし、イランはまだ(ウラン)濃縮を完璧にしておらず、また国連による制裁はイランがミサイル計画の技術を入手する能力を弱めたと述べた。下院外交委員会で、反抗的な態度の代償を明確にするために、経済制裁を利用して、米政府は長年の目標であるイランの進路変更を説得することを追及していると述べた。

(4) バーマン下院外交委員長は、「イランの核の脅威を阻止することは我々のもっとも緊急な戦略的課題である」、「イランがいつ核兵器を製造するか誰も正確には把握していないが、そのときは近い」と発言し、米国は、ロシア、中国及び欧州の同盟諸国と共に、外交的にイランに関与する無条件の努力をする必要があると述べている。

(5) ジョンドローNSC 報道官は、「イラン政府は、このような行動に出ればイラン国民を国際社会からさらに引き離すだけであり、世界から信用してもらおうと本気で思っているのなら、イランはこれ以上ミサイル発射実験をするべきでない」と述べた。

(6) マコーマック国務省報道官は、今日発射されたミサイルで証明されたように、イランは活発なミサイル計画を有しており、イランから浮かび上がる様々な脅威に対処するための複数のトラックを続行する重要性を強調した」と述べた。

(7) イランは、7月10日に2度目の発射実験を行ったが、イスラエルに届き得る長距離ロケット及び、イラン国営放送が「特別な能力」と呼ぶ、他の装置の使用を含んだ。これを受けて、グルジアに滞在していたライス国務長官は、「ミサイル発射実験が欧米諸国に対するメッセージを意味したのなら、我々もまたイランへメッセージを送っている、我々は米国及び同盟諸国の国益を守る。この点を混乱すべきではない」との声明を発表した。

ライス国務長官のコメントと新たなミサイル発射実験は、イランの疑わしい核兵器開発の取り組みについての対立で、軍事演習と鋭い言葉遣いが組み合わさった議論を続けさせている。

【ご参考】中東調査会データから

イランでは、頻繁に演習実施が報道されている。またミサイルの発射実験も、頻繁に報道されている。演習も各種兵器の実験や公開は、イラン軍、革命防衛隊の威信や士気を高めるため積極的に報道されている。今回のミサイル発射演習も、従来の演習、ミサイル発射実験報道の中も見れば、特段注目すべき点はないだろう。

報道されたイランのミサイル演習 (2007年1月--2008年7月)

2007-01-21

イラン国営TVは、21日から革命ガードがテヘラン郊外で短距離ミサイル試射などの軍事演習を実施すると報じた。

2007-01-22

イランはテヘラン南東100kmにあるギャルムサールにおいてミサイル試射を開始、Zalzal-1 and Fajr-5を試射した。

2007-02-07

イラン国営TVは、イラン革命防衛隊がペルシャ湾とオマーン海で、ミサイル防衛能力を試すための空海の軍事演習を2日間の日程で開始したと報じた。

2007-02-08

イラン革命ガードは軍事演習の一環でミサイル発射実験を行った。このミサイルについて海軍のファダヴィー司令官は、湾岸地域やオマーン海、インド洋北方に配置されている「大規模な軍艦」を撃沈できるものだと述べた。

2007-02-19

イランの革命ガードは、16州で3日間に渡る軍事演習を開始、ミサイルの試射を行った。

2007-03-18

イラン紙は、イラン陸軍による新兵器・軍備開発につき以下の通り報じた。①対空迎撃ミサイル：1ユニットから2発のミサイルの発射が可能。いかなる地形・天候の下でも空中の標的を追跡・撃墜することが可能。②移動野戦病院：2台の大型バスを利用して開発。集中治療室とあらゆる手術が実施可能な手術室を装備。③レーダー警報システムとレーダー攪乱システム計画：レーダーによるコントロールの下で敵のレーダーを確認し攪乱するシステムの試験に成功。大量生産が可能な段階に達した。

2007-09-22

イラン軍はテヘラン郊外で大規模な軍事パレードを開催、射程1800キロの新型弾道ミサイル「ガドウル1」など各種兵器を公開した。

2007-11-27

イランのナッジャール国防相はバシジの集会で、射程距離2000kmの新型ミサイル「アーシューラー」の製造に成功したと述べた。新型ミサイルと既存のシャハーブ3との差異は不明。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799